香川大学教育学部

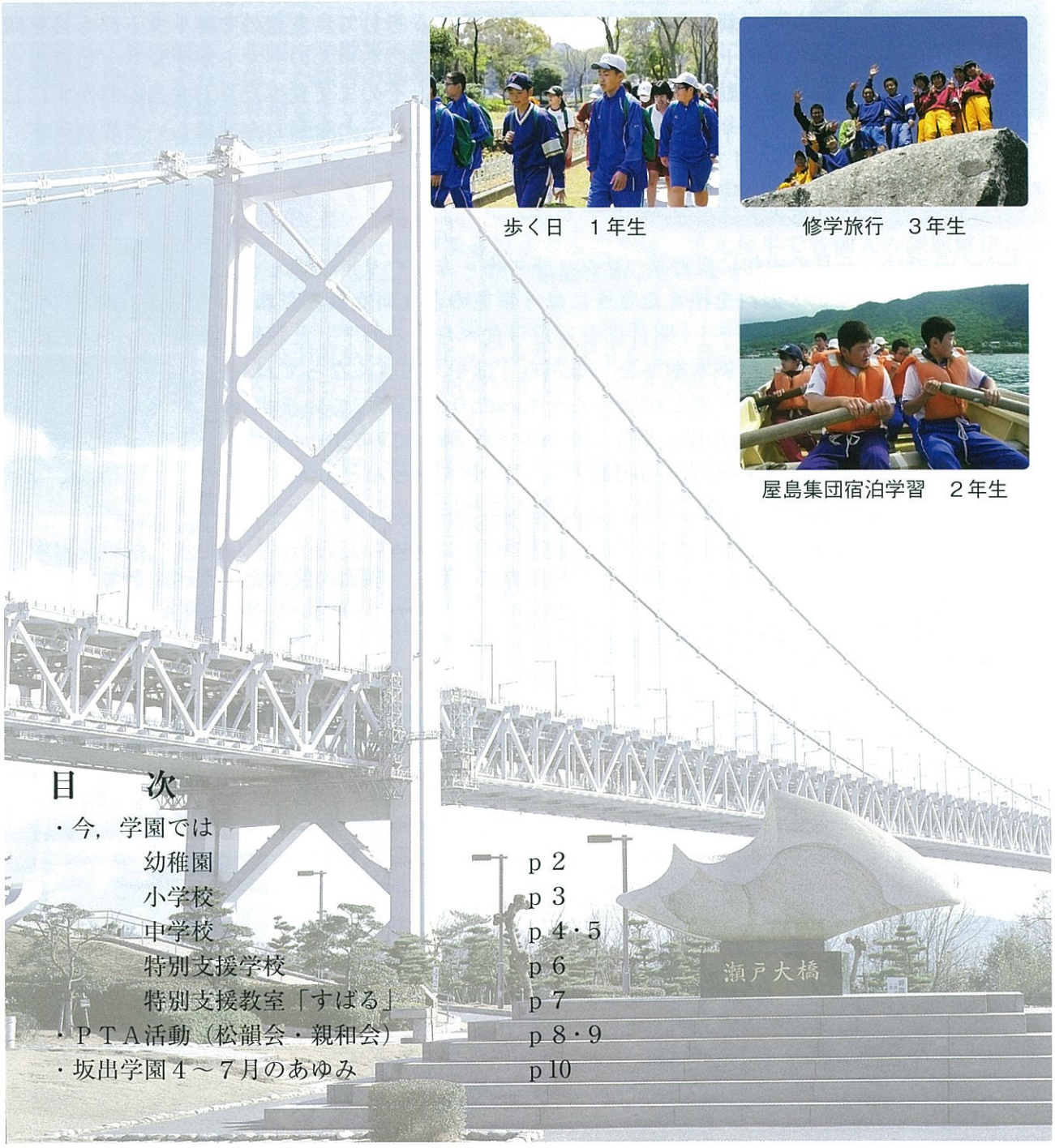
附属坂出学園だより

第57号　2017.7

歩く日　１年生

修学旅行　３年生

屋島集団宿泊学習　２年生



目　次

・今，学園では
　幼稚園　p２
　小学校　p３
　中学校　p４・５
　特別支援学校　p６
　特別支援教室「すばる」　p７
・ＰＴＡ活動（松韻会・親和会）　p８・９
・坂出学園４～７月のあゆみ　p10

自然に親しむ中で～揺れる心・あふれる心・つながる心～

大きくなってうれしいな　～きぐみ　3歳児～

身近な野菜に親しみがもてるようにと５月中旬に，お家の人と一緒に一人一鉢でミニトマトの苗を植えました。水をあげたり，ミニトマトの苗に「大きくなってね」「おいしくなってね」と声をかけたり思いをもったりして育てています。生長する過程では，いろいろな発見がありました。最初は小さかった苗が，自分の腰→胸→目の高さへと背が伸びていくことに驚いたり，黄色い花が咲いたり，小さな実ができたことに目を輝かせて喜んでいました。その生長を嬉しく思いながら，きぐみの皆でトマトの歌を歌ったり，手遊びをしたりしてトマトへの親しみを膨らましてもいます。そして，友達のミニトマトにも目を向けるようになり「○○ちゃんトマトは背が大きいね」や「◎◎ちゃんのトマトがオレンジ色になった」と日々の変化に心を揺り動かしています。収穫したら，そのまま食べたりお弁当のおかずにしたり，家族に食べてもらったり等，子どもたちの思いで食べることを楽しんでほしいと思います。

自分たちで育てた野菜はおいしいね！　～あかぐみ　4歳児～

あかぐみでは，５月の中旬に夏野菜（ナス・トマト・キュウリ）を植えました。プランターにナスの苗を植えたときには「紫色のきれいなお花だね。ナスはどこからできるのかな？」「明日になったら食べられるの？」と収穫を心待ちにしていました。毎朝水やりをしながら「はやく大きくなってね」と野菜の苗に言葉をかけたり，優しい気持ちをもったりして育てています。日々生長する野菜に子どもたちは，指先でチョンっと触ってみたり，トマトの色づきを喜んだりしています。６月になって，ナスがどんどん大きくなり，子どもたちと一緒に収穫しておいしく頂くことにしました。「ナス，あまり好きじゃないな」と言っていた子も，一口食べてみると「ナスってこんなにおいしいの？もっと食べたい！」と，食べる前の不安そうな表情が一変し，満面の笑みを浮かべ，とても嬉しそうでした。収穫したナスはあっという間になくなり，子どもたちはおいしさと嬉しい気持ちでお腹も心もいっぱいになりました。自分たちで育てた野菜は一味も二味も違ったようです。

収穫したジャガイモを幼稚園のみんなにもてなそう　～あおぐみ　5歳児～

昨年冬，一つ年上のお兄さん，お姉さんといっしょに植えたジャガイモが，畑で大きくなりました。茎を思い切り引っ張ると，予想以上にいっぱい出てきたジャガイモに大歓声をあげたあおぐみさん。一体，いくつ収穫できたんだろう？数えていくうちに，長い長いジャガイモの列ができました。

「これまで僕たちがしてもらったように，今度は自分たちが幼稚園のみんなをもてなしたい」「ジャガイモをたっぷり入れたカレーライスを作って，パーティーを開きたい」と考えました。慣れない包丁さばきに四苦八苦しながら，きぐみやあかぐみの人たちに喜んでもらいたい一心で，がんばりました。「おいしいね」と言ってもらえたこと，小さな友達をお世話する役目を果たせたこと，クラスのみんなで協力できたことなど，やりきった自分への誇らしさを心いっぱい感じたことでしょう。

研究主題

学びに熱中する子どもの育成
－学習意欲を育て，他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくり－

本校では，今年度も上記のテーマを設定し，学習内容に興味をもち，課題解決に向けて他者と協働しながら考え続ける子どもづくりに努めています。その授業づくりでは，これまでの研究成果を生かしつつ，学習意欲の視点で検討しながら，場面に応じた働きかけを取り入れています。今年度の教育研究発表会は，１月25日（木），26日（金）に行います。先生方のご参会，また保護者の方のご協力を，どうぞよろしくお願いいたします。

研究授業

５年　体育科「ハードル越えて　自分を超えろ！　～陸上運動（ハードル走）～」　山本　健太

高学年の陸上運動・ハードル走では，スタートから第１ハードルまでに十分な加速を行い，それ以降のハードルのインターバルを減速しないようにリズムよく走り越す技能を身に付けることが大切です。本単元では，頭の位置や上体の傾き，歩幅や歩数等の複数ある技能のポイントを基に自己の課題を捉え，それに応じた練習の場や練習方法を，選んだり見いだしたりしていく力の育成を目指しました。

【動画で課題を捉える】

本実践では，８秒の制限時間内で，直線コースに設置されたハードルを３台走り越え，何メートル進むことができるかという競走を行いました。そして，単元前半に，チーム戦で記録の伸びを競う場を設定しました。難易度の低いミニハードルを用いた場で，チームメイトとアドバイスし合いながら，ハードルの走り越し方のこつを見つけていきました。課題解決をして自信をつけてきた子どもたちは，単元後半で各個人の課題解決に向けて意欲的に取り組んでいきました。チーム戦で協働することのよさを感じている子どもたちは，「踏み切り足が同じ方がリズムよく走れるから，４歩より３歩のリズムで走ってみたらいいよ」「踏み切りが近いと体が上に上がってしまうよ。もう少しハードルの手前から踏み切ってみたらどうかな」等と，修正点とその理由をアドバイスし合って解決に向かいました。高さが高くなっても課題解決できたことで，成功体験を積んだ子どもたちは，「もっと高さを高くして記録に挑戦したい」「ハードルの台数を増やしても，同じ距離を走りたい」等の，さらに難易度の高い各個人の目標を設定して挑戦していきました。

【課題に応じて場を選択】

２年　国語科「書かれていることを順序よくまとめよう　－『たんぽぽ』－」　尼子　智悠

本単元では，昆虫や植物の成長の過程について説明している本を読み，書かれていることを順序よくまとめて表し，自分の選んだ本の内容について友達に伝えるという言語活動を設定しました。その中で，「文や文章が，成長という時間の順序について述べられているものかどうか判断する力」の育成を目指しました。子どもたちが読んでいる昆虫や植物の成長の過程について説明している文章には，成長の過程に関係するものと，そのものの一部について詳しく述べたものが，入り混じって述べられていることが多くあります。例えば，「カブトムシはさなぎになります。約３週間後にカブトムシの成虫になります。成虫のオスには角があり，メスにはありません。」という文章を読んだ際には，さなぎになって成虫になるという順序と，その成虫のオスには角がありメスにはないという特徴とを区別して捉えていくことが，その説明文の内容を理解することにつながっていきます。

この思考を明確にするために，子どもたちが本の内容をまとめていく際には，本に述べられている内容を短く付箋紙に書き，順序性があるものは上段に並べ矢印でつないで示し，特徴を述べたものはその下に付随するカードを作っていくことにしました。しかし，事前の実態調査から，教科書教材で学習したことを，自分の本の読みに生かす際に「自分の選んだ本は難しそうだ」と感じる子どもがいることが想定されました。そこで，子どもたちが，自分が選んだ本でも順序よく内容をまとめられそうだという自信がもてるように，教科書教材『たんぽぽ』で学習した後に，さらに，教師が作った，子どもの興味に応じた簡単な説明文で内容をまとめる学習をする単元構成の工夫をしました。段階を追って，難易度を上げていくことで，子どもたちは，自分の選んだ本でも，うまくまとめられそうだという自信をもち，自分のカードに選んだ本の内容をまとめていくことができました。そして，「他の本でも内容を順序よくまとめてみたい」という，さらに学びを生かしていきたいという意識もたくさん見られました。

【教師自作の簡単な説明文をまとめる】

「学ぶこと」と「生きること」をつなぐ「ものがたり」

文部科学省の実践研究委託を受けました

本校は平成28・29年度に，文部科学省より「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」の委託を受けました。この事業は，全国の11の地域（都道府県）が選定されており，本校は香川県の拠点校として位置づけられています。

それにともない，本校における「ものがたり」の授業と文部科学省が構想するアクティブ・ラーニングとの関係を以下（表１）のように考え，検討を続けているところです。

表１　アクティブ・ラーニングの視点と「ものがたり」の視点との対応

	文部科学省が構想するアクティブ・ラーニング	本校の「ものがたり」の授業
主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら，見通しを持って粘り強く取組み，自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。	①学習の主導権（主体）が生徒にあるか。 ②自ら，ひと，もの，ことに関わっていく活動になっているか。 ③自ら課題に向き合い，思考を巡らせ，挑戦しようとしているか。
対話的な学び	子ども同士の協働，教員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。	多様な個の文脈の中で ①クリティカルに聴き合い，問い合えているか。 ②対等な関係で語り合えているか。 ③生活の言葉や教科の（本質の）言葉で語り合えているか。
深い学び	各教科で習得した知識や考え方を活用した，「見方・考え方」を働かせて，学習対象と深く関わり，問題を発見・解決したり，自己の考えを形成したり，思いを基に構想・創造したりする「深い学び」が実現できているか。	①自己を振り返り，語り直すことで，新たな自己に気づけているか。 ②教科の本質を踏まえ，実感を伴う理解となっているか。 ③意味付けしたり，価値を実感したりしながら，自分なりの新たな筋道を生み出せているか。 ④自己の中に新たな学びや考え方が生まれ，自分の言葉として表出されているか。

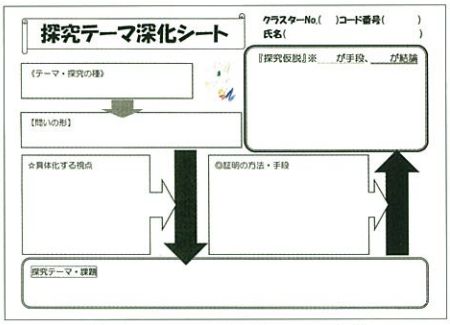
本校の全体研究とともに上記の関係性を「ものがたり」の授業実践で確認していきたいと考えています。研究授業では，これまでの「ものがたり」の視点に加えて，「主体的，対話的で深い学び」につながる手立ておよび各教科で育成する資質・能力との関係についても意識しながら構成しています。今後も授業実践を積み重ね，全体研究の推進とともに「ものがたり」の授業を実践することが，必然的に「主体的，対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）につながることを確認していきたいと考えています。

【対話しながら課題を検討している様子】

2017 新ＣＡＮスタート！

本校の総合学習CANは，次の言葉の頭文字をとったものです。
C･･･Cluster（クラスター）異学年合同の小集団
A･･･Action Learning（アクション・ラーニング）交流学習法
N･･･Narrative Approach（ナラティヴ・アプローチ）振り返り法
総合的な学習の時間を使って，私たちの身の回りの世界すべてを対象に，興味ある内容を探究し，自らの可能性を拡げていく附属坂出中学校の「本物の学習」です。

CANでは自由に探究課題が設定できる一方で，課題や仮説が定まらずに何をしていいか悩むクラスターが多く見られます。そこで「探究テーマ深化シート」（右図）というワークシートを活用し，生徒が段階を踏むことで探究仮説を設定できるように工夫しました。また，「CANの日」を夏休み前と夏休み後の２度設定し，早い段階で外部の専門家にアクセスし，課題や探究方法などについてアドバイスをいただけるようにしていこうと考えています。



【探究テーマ深化シート】

2017 新シャトルも実施されました！

今年度も，総合学習シャトル一般講座では，実験・創造・調査の３分野に分かれて，それぞれの探究スキルを身につけるための講座が開かれました。今年度は，表現力の育成にも取り組み，各講座で探究した内容を表現するための工夫を行いました。

【実験を行い，データを記録している様子】

【つくった作品を表現し合っている様子】

【調査結果を全体に発表している様子】

総合学習シャトル特設講座では，より具体的な探究スキルを身につけるために15講座が開かれました。今年度は，これまでの先輩の行ったCANの先行研究を分類する講座も開かれ，受講者がまとめた先行研究の系統別分類表は，他のクラスターの探究にも活かせるものとなりました。

【⑧情報の読み方：
新聞から情報をまとめている様子】

【④資料収集A：
先行研究を分類している様子】

【先行研究を分類表で確認している様子】

附属特別支援学校における教育相談の取組について

【 巡回・派遣による教育相談実施の経緯と目的 】

平成20年度から文部科学省が主体で実施されている特別支援教育推進事業は，発達障害を含む全ての障害のある幼児児童生徒の支援のため，専門知識を有する学校教員や，大学教員・医師などの外部専門家の巡回・派遣による教育相談を実施し，保育所，幼稚園，認定子ども園，小・中・高等学校，特別支援学校（以下，「学校など」）の特別支援教育を総合的に推進する事業です。

その事業の一環として，「**連携訪問**」と「**巡回相談**」が実施されています。これらは，特別支援学校の教員などが，県内の学校園を訪問するなどして，対象の**幼児児童生徒に対する指導内容・方法について，指導・助言を行うことにより，学校などが幼児児童生徒に対する適切な指導と必要な支援を実施したり，校内の総合的な支援体制の整備を推進・充実したりすることを目的**としています。近年，通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする幼児児童生徒は6.5％と言われていますが，別の研究では，二次的な原因も含めると10％の幼児児童生徒に何らかの困難さや課題があるとも言われています。これらの背景からも，特別支援学校の地域の学校などに果たす役割は大きく，「連携訪問」と「巡回相談」は本校の教育相談の取組の中でも大きく位置付けられています。

【 連携訪問と巡回相談の概要 】

本校が実施している連携訪問と巡回相談の概要は以下のとおりです。（一部香川県教育委員会特別支援教育課 実施要項から引用）

	連携訪問	巡回相談
対　象	・**小・中学校の特別支援学級**に在籍する児童生徒 ・学校などに在籍する障害のある幼児児童生徒（発達障害は含まない）	・主として**通常の学級に在籍する**発達障害のある幼児児童生徒
訪問相談員	管理職を含む本校教員	本校コーディネーター（県教育委員会が巡回相談員として委嘱する）
期日など	訪問日，当日の日程，指導内容などは，関係担当者（対象児の担任と訪問相談員など）で協議の上，決定する	
訪問回数	１校につき，**年２回まで**（ただし障害種別ごとに申し込むことができる）	１校につき，**原則年１回**（原則として12**月末までに実施**する）
申込先	本校	特別支援教育課
訪問形態	**授業参観，訪問相談員と関係者（管理職及び担任など）との懇談**を，各学校などの実情に合わせて計画する（懇談の際，個別の指導計画，個別の教育支援計画を提示する）	
実施後	連携訪問，巡回相談を実施した学校などは，訪問の際の助言内容や訪問一か月後の幼児児童生徒や校内支援体制の状況（成果と課題）を報告書にまとめ，本校及び特別支援教育課に提出する	

【 地域に開かれた特別支援教育を目指して 】

前述したように，教育活動を行う上で，特別支援教育の役割は年々増加傾向にあると思われます。連携訪問や巡回相談などの取組は基より，緊急の相談や対応の必要が生じた場合は，本校にご連絡をいただければと思います。

平成28年度 特別支援教室「すばる」活動報告

平成28年度の特別支援教室「すばる」の活動についてご報告します。

平成28年度の申込件数は97件でした。個別指導事業として，通常学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもを対象に，教科学習および社会性育成について個に応じた指導を実施しました。個別指導回数は，第１期から第３期合計で571回でした。保護者や学級担任を対象とした教育相談事業として，電話相談を含め166件の教育相談を実施しました。

さらに研修教育事業として，香川県教育員会派遣現職教員長期研修生２名を受け入れました。また，香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻特別支援教育コーディネーターコースの院生（現職派遣）４名の指導実習を受け入れました。

特別支援教室「すばる」新スタッフ紹介

特別支援教室「すばる」のスタッフは，香川大学教育学部・香川大学大学院教育学研究科の教員と小学校・中学校・特別支援学校の教員で構成されています。

今年度「すばる」は，現職教員長期研修生として２名の先生を迎えて活動しています。今回は，新スタッフとなった２名の先生を紹介します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

大西　徳子　先生

三豊市立詫間中学校より，内地留学生として１年間お世話になります。これまで一人ひとりのお子さんとじっくり向き合うことができていなかったように思います。困っていることの解決法を考えたり，「できる」ことを増やしたりすることで，成長してまいります。よろしくお願いいたします。

山本　治　先生

香川県立香川中部養護学校より，内地留学生として１年間お世話になります。すばるでは，子どもたちが困っていること，つまずきを感じていることに対して様々な考え方やアプローチの方法を学ばせていただいています。まずは，子どもたちの言葉や思いに耳を傾け，充実した時間を過ごせるように努力していきたいと思います。

松韻会だより

神余 智夫さん　文部科学大臣表彰受賞！

去る６月３日に全附P連の総会がお茶の水女子大附属中学校で行われました。28年度の報告と29年度の役員承認・計画・予算審議等がありました。

その後，講堂にて創立65周年記念式典が行われました。５年ごとの周年時に行われる文部科学大臣表彰に，元松韻会会長の神余智夫さんが受賞されました。今回は計37名の方が受賞されました。神余さんは下の表の通り松韻会のみならず全附連でも活躍中であり，先の総会では専務理事に就任され，今後も全附P連と附属坂出学園の発展にその力を大いに発揮してくれることでしょう。

H17年度～H22年度	松韻会　役員
H23年度	松韻会　会長(四国地区会長)　全附P連評議員
H24年度	松韻会　会長(小学校100周年実行委員長) 全附P連評議員
H25年度	松韻会　会長
H26年度	全附P連　監事
H27年度	全附P連　監事
H28年度	全附P連　総務委員長　兼専門委員会委員長
H29年度	全附P連　専務理事

幼稚園より

５月27日（土），今年も晴天の中，普段お世話になっている幼稚園舎をきれいにしようと土曜メンテナンスが行われました。

今年度，松韻会は「ALL松韻会の確立」をテーマに掲げており，幼，小，中学校から親子で参加していただき，参加者は総勢117名でした。

前日から園庭に現れた大きな「砂山」はお父さんたちの手によって，あっという間に園庭と黄組前の砂場に収められました。

今年はペンキ塗りも行われ，門，鉄棒，各クラス内の用具が，色彩を取り戻しました。子供たちも，体のあちこちにペンキを付けつつお手伝いしてくれました。

リズム室では大型積み木のヤスリかけ，絵本の部屋では絵本のお手入れが行われ，今年一年，子どもたちが安心して遊ぶことができそうです。

皆で和気あいあいと協力しあい保護者間の親睦も深まり，充実した半日になりました。

小学校より

いじめ防止プログラム

６月12日（月），４，５，６年生の児童と保護者100名を対象に鳴門教育大学大学院の阪根健二教授をお迎えして公開研究会を行いました。

昨今，学校におけるいじめの問題は大きな社会問題になっています。学校だけの問題ではなく，いじめ防止のために保護者ができることを議論しました。

中学校より

ウェルカムカフェ

４月21日（金），授業参観・松韻会総会終了後，家庭科室において一年生の保護者の方を対象に「ウェルカムカフェ」を開催しました。約50名の保護者の方にご参加いただき，軽食と飲み物を囲んで，和やかな会となりました。

自己紹介では，お子様の特技や夢中になっていることをお話いただき，お子様に対する愛情が感じられとても温かい雰囲気に包まれました。また，様々なお悩みに対し，先生方や他の保護者の方からアドバイスやご意見を聞くことができて，不安な気持ちが解消されたご様子でした。

カフェ終了後も名残惜しくお話をされている姿も見られ，保護者間の交流が少なくなる中学校生活の始まりに，このような「絆」が深まる時間を持つことができ，大変有意義なカフェとなりました。

特別支援学校より

親和会

特別支援学校春季運動会

５月14日（日），特別支援学校春季運動会が開催されました。

前日まで天候が思わしくなく心配していましたが，運動会当日はまさに運動会日和で，来賓の皆様をはじめ，地域の皆様にもたくさんお越しいただきました。

白熱した玉入れ

恒例のPTA種目では，保護者や卒業生，来賓・地域の皆様に玉入れに参加していただいたり，綱引きでは，先生チーム・卒業生チーム・各部の保護者チームに加え，今年は初めて生徒の選抜チームも参加し，笑顔あふれる熱戦を繰り広げたりしました。

親和会バザー

子どもたちは，新学年となったばかりで限られた時間の中，一生懸命練習してきた成果を存分に発揮してくれ，それぞれの成長した姿を見ることができ，保護者としましては喜びと感動いっぱいの運動会でした。

そして，本校ならではのアットホームで終始笑顔あふれる，本当に良い運動会でした。最後に，子どもたちが本番で精一杯できるように，ご指導・ご準備して下さった先生方に，この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

坂出学園４月～７月のあゆみ

よりよい生き方について考えました

【田中健太さん「何でもできる障がい者」】

【松本七海さん「個性」】

５月30日（火），校内弁論大会が行われました。

「社会を明るくするために」というテーマのについて全校生が書いた作文の中から，各クラス１名が代表者として発表し，１年生の田中健太さんと３年生の松本七海さんが学校代表として選ばれました。

田中さんは，「何でもできる障がい者」という演題で，障がいをもつ弟に対して，自分と比べて何もできないと思っていました。ところが，ある日ことばを発する弟の姿を見て，できることが増えて少しずつ成長する弟がこれまでの自分のとらえと変わってきたことに気づきました。この体験を通して，障がい者も自分たちと同じであるという価値観になったことを主張してくれました。

松本さんは「個性」とは何か，について語ってくれました。「個性」と「わがまま」のちがいに注目して，「個性」とは何かを自分なりに語り直してみることで，私たちの社会に合った「個性」の発揮の仕方が見つかっていくことに気づかせてくれました。

360名全員が，「よりよい生き方」について考え，クラスや全校で自分の考えを発表し，それを自分のことのように真剣に聴く。このような時間を大切にすることで，学校全体に自分や他の人の命を大切にして，社会の一員としてのあり方を学ぶ機会にもなりました。

中学校

大学との合同研究集会

６月５日（月），大学との合同研究集会を行いました。これは，小学校が毎年この時期に行っている行事で，研究授業や研究内容を大学の先生方に見ていただき，様々な立場からの意見を聞くことで，今後の研究方向を確認する集会です。

今回は，３年国語科「段落どうしの関係に気をつけて解説文を書こう－『自然のかくし絵』－」という授業を公開しました。生き物の擬態について，「問い・具体例・答え」の段落相互の関係に注意しながら解説文を書きました。そして，自分の書いた解説文の具体例が，相手にわかりやすい文章になっているかを話し合いました。

授業後の討議では，大学より来ていただいた七條正典先生，佐藤明宏先生，山岸知幸先生，松下幸司先生，十河妹先生，後藤知子先生の他，大学院生２名を交え，本校教員と共に主に授業について話し合いました。言葉の吟味，学び合う場の設定等の視点で活発な討議がなされ，大学の先生方からは，専門的な見地から貴重なご意見をいただきました。本校教員にとって得るものが多くあり，このような貴重な機会を大切にしながら，今後も大学との連携を重視したいと改めて考えました。

小学校

特別支援学校

新しいテントと入退場門
～「元気の力」をお届けできた運動会～

５月14日（日）。初夏の日ざしを受け，さわやかな五月晴れのもと，地域の皆様や卒業生，また保護者の皆様のご支援とご協力をいただき，春季運動会が盛大に行われました。

会場の皆様からの温かい声援や拍手による応援に，子どもたち一人一人が頑張り，また，異なる学年や部の友達と協力して活動する姿から，会場の皆様に「元気の力」をお届けすることができました。

今回の運動会には，新しいものが二つ登場しました。それは，「テント」と「入退場門」です。

本校は，平成19年に現在の校名になりましたが，新しい校名が入ったテントがありませんでした。そこで，「附属坂出学園特別支援教育後援会」の皆様からの支援を得て，現在の校名の入ったテントを二張購入し，初めて使わせていただきました。

また，杭で支えていた不安定な入退場門も日頃からお世話になっている地元事業所の方が知恵を出してくださり，埋め込み式の安定した門になりました。

ご協力いただきました皆様，ほんとうにありがとうございました。

運動会では，地域や関係機関からたくさんのお客様にお越しいただきました。運動会を終えて，参加者全員で片付けている様子を見ながら，物心両面でたくさんの方々に支えられていることを感じ，改めて心が温まりました。今後もよろしくお願いいたします。

幼稚園

角山登山

４月，角山登山をしました。登山道で「ホーホケキョ」とうぐいすの鳴き声が聞こえてきて，耳をすませる場面がありました。地域の方々との出会いも嬉しい体験でしたよ。

春の遠足

５月，国営まんのう公園へ親子遠足に行きました。大きなトランポリンや広い芝生広場で思い切り体を動かすことがとても気持ちよかったです。お家の人といっしょに食べた手作り弁当，最高でした。

香風園へ園外保育

６月，香風園のいけすに赤ちゃん鯉がたくさん生まれていました。懸命にえさをやってみますが，大きな鯉に取られて小さな鯉の口にはなかなか届きません。自然の厳しさを少し感じ取った子どもたちでした。

楽しい水遊び

いよいよ夏到来。冷たい水に体を沈めたり，友達と水をかけ合ったり，幼稚園中に歓声と笑顔があふれます。さあ，これから，思い切り水遊びを楽しみますよ。

編集後記

暑い日がやってきました。中学校では，技術・家庭科の授業で生徒たちが栽培しているいろいろな野菜が実をつけていて，まさに実りの時期を迎えています。

どんな野菜をつくるのか自分たちで話し合って決めて，協力しながら栽培していく。上手く実をつけるグループもあれば，虫に葉や実を食べられてしまうグループもあります。そこには生徒たちの「ものがたり」がみられます。本年度は，「ものがたり」の授業を実践することで，主体的で対話的で深い学びにつながることを確認していきます。

保護者をはじめ関係の皆様，29年度もどうぞ温かなご協力，ご支援をいただけますよう，よろしくお願いいたします。

発行年月日：2017年７月12日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

桑原　育子　（附属幼稚園）

樽本　導和　渡部　岳史（附属坂出小学校）

小林　理昭　大西　光宏（附属坂出中学校）

合田　卓生　妹尾　恭子（附属特別支援学校）